

与謝野町 未来への 展望の話

山添藤真 活動レポート 2018 vol.3

2018.3月発行

夢と希望の
与謝野町をつくる会
(山添藤真 後援会)

〒629-2263

京都府与謝郡与謝野町字弓木 4 9 3 番地

TEL : 0772-46-2031 (携帯 080-2077-4591)

FAX : 0772-46-4394

EMAIL : toma.yamazoe@gmail.com

www.yamazoetoma.com

山添藤真

YAMAZOE TOMA



未来への展望

(1) 新たな与謝野づくりに向けて

P2

(2) 基本政策

① 経済成長を実現する

P3

- ▶ 中小企業支援
- ▶ 地場産業支援
- ▶ 地域循環型経済の強化
- ▶ 新産業の創出
- ▶ 企業誘致の推進
- ▶ 人材育成支援

② 多様な交流を実現する

P5

- ▶ 観光産業の強化
- ▶ 海外交流の充実
- ▶ 移住定住の促進
- ▶ 地域内交流の推進

③ 安心安全を実現する

P6

- ▶ 福祉医療の充実
- ▶ 子ども子育て環境の充実
- ▶ 防災減災対策の強化
- ▶ 生活支援の強化



④ 与謝野力の向上を実現する

P7

- ▶ 未来を見すえた教育の充実
- ▶ 生涯教育の充実
- ▶ 文化芸術振興の促進
- ▶ 和文化の継承

⑤ 持続可能な環境を実現する

P8

- ▶ 社会基盤整備の促進
- ▶ 自然環境・景観の保全促進
- ▶ 再生可能エネルギーの創出
- ▶ 行財政改革の推進



(3) データでみる与謝野町

P9

新たな与謝野づくりに向けて

与謝野町の

皆様のご期待を受け、町政の舵取り役を担い、4年の歳月が過ぎようとしています。

この間、私は町民憲章で謳われているまちの将来像を実現するため、6つの基本政策を掲げ「みんなの知恵と技術で、新たな価値を生み出すまちづくり」を一貫して推進してまいりました。そして、このたび、先人たちから受け継いできたまちづくりを基盤とし、新たなまちづくりに向けた基本政策をとりまとめました。私はこの5つの基本方針及び各種施策を講じていくことが、住民の皆様の生活を支え、未来を切り拓くことにつながると確信しています。2020年には、丹後ちりめん創業300年の節目の年を迎えます。社会の不透明性が増す今、丹後ちりめんの始祖たちのように、ぶれることない信念を胸に、現在と未来を切り拓く不断の努力を重ねることが求められています。

与謝野町の皆様、
ともに前に進みましょう。

中小企業の振興は地域経済と地域社会に欠かすことのできないものです。
地域内循環型経済を促進するとともに、域外からの財の獲得に果敢に
挑戦することにより、安定した経済成長を実現します。

中小企業支援

平成29年度には、12種類の中小企業の支援制度を設け、伴走支援を続けてまいりました。これらの制度の充実に努めるとともに、国府と連携しながら各種税率の軽減措置等の支援策を講じます。また、産業革新の障壁となる規制等の緩和に取り組めます。

地場産業支援

織物業と農業、この2つの基幹産業の力強い発展をめざします。織物業では、生産基盤支援や販路開拓支援などを継続しておこないます。農業においては、自然循環型農業の根幹資材である有機質肥料「京のまめっこ」の増産とJAS資材認定、主要作物である米や農作物の安定的な生産及び農業体験の促進、農福連携の積極的な推進、地域産農作物の六次産業化などを促進します。

地域循環型経済の強化

中小企業振興基本条例の理念に添い、経済活力が力強く地域内循環するための施策を講じます。町ぐるみで中小企業者の受注機会の増大に努めるとともに、かつて時限的に講じた住宅改修助成制度のような経済的波及効果が期待できる取り組みを立案し実行します。また、有効な資源を効率的に利用及び再生産し、持続可能な形で循環させていく「循環の原則」に基づく取り組みを支援します。



新産業の創出

与謝野ブランド戦略事業の推進により、新産業創出の兆しが見えはじめています。ホップなどの原料から生産するクラフトビール産業や桑や繭からはじめる新シルク産業が持続可能なしごととして定着するよう、産官学が一体となった取り組みを進めます。また、企業間・業種間の交流強化により、新製品の開発や新産業の創出に取り組めます。



企業誘致の推進

平成26年の着任以降、京都市内に本社を置く乳製品乳酸菌飲料の製造会社と婚礼和装の製造会社の2社に町内進出を決定いただいています。確実に工場立地が進むよう取り組むとともに、更なる誘致を促進します。

人材育成支援

地場産業、中小企業や医療介護分野などの人材不足を解消するため、関係機関と連携を取りながら人材育成や確保に努めます。また、事業継承や起業をめざす方々に対して、個別事案に即したきめ細やかな支援に取り組めます。また、生産性を向上させるために、人工知能や科学技術の利活用も進めます。



人の魅力で人が集う。
これらの考え方に基づき、ヒト・モノ・コト・情報の流動性を
高めることによって、大きな人の流れを実現します。

観光産業の強化

海の京都観光圏において、与謝野ならではの滞在交流を推進するためには、地域の魅力が集う各拠点施設の充実と公共交通体系の整備が必要です。農の拠点エリアでは、道の駅を地域の魅力発信拠点として再整備し、ちりめん街道地域では、旧加悦町役場庁舎や古民家の利活用を促進します。また、阿蘇ベイエリアでは、シーサイドパーク内に景観と調和する新たな拠点施設の整備を行います。各関係機関と連携しながら鉄道網やバス路線の充実を図り、新たなアクセスとして海の航路をつなげます。

海外交流の充実

英国ウェールズのアベリスツイスとの交流によって、両国の相互理解及び国際理解の促進を図ってきました。平成27年度からは国立アベリスツイス大学と包括連携協定を締結し、共同で産学連携と文化協力を進めています。これらを継承し発展させるとともに、

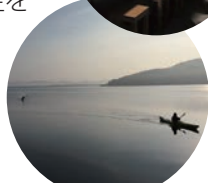
町内に在住する高校生たちが地球規模の広い視野を獲得することを
応援するための支援制度を創設します。

移住定住の促進

地場産業事業者との連携のもとに、移住希望者に対して短期滞在型の体験プログラムを実施してきました。与謝野ならではの魅力を体感できる事業を継続するとともに、町内に点在する空き家の利活用を促進する制度を整えます。

地域内交流の推進

大きな人の流れを生み出すには、住民一人ひとりがまちの魅力を知ることが極めて重要です。まちの魅力を再発見・再認識する機会の創出、地域ぐるみで育まれてきた文化や慣習を伝承する場づくりなどを通じて、地域内の相互理解を推進していきます。



住民の皆様が安心安全な生活を送るためには、ライフステージに応じた切れ目のない社会保障政策の充実と災害に強いまちづくりの推進が必要不可欠です。また、個人の多様性が尊重され、お互いを思いやるやさしい地域社会づくりを通じて、安心安全な町を実現します。

福祉医療の充実

民間事業者の弛まぬ努力により、高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉などの各種施策の推進が図られてきました。町内各地にバランスよく配置された拠点施設で安定した福祉サービスを受けることができるよう、より一層の福祉人材の確保と育成を進めます。

また、関係機関との連携によって、京都府立医科大学附属北部医療センターや町立国民健康保険診療所、健康増進施設であるクアハウス岩滝の充実に努めることによって、地域の保健医療体制の発展を実現します。国民健康保険税率や税額の引き下げをはじめ、各種負担の抑制にも努めます。

子ども子育て環境の充実

子どもたちの生命の保持と情緒の安定や豊かな感性を育むために、平成34年度までに町内3箇所に幼保連携型認定こども園を新設整備します。さらに、早朝保育・乳児保育・一時保育・病児病後児保育などの充実を図るとともに、引き続き医療費や保育所及び幼稚園使用料の軽減に取り組みます。

生活支援の強化

こどもの貧困対策、認知症サポーターの育成、高齢者見守りネットワークの充実、ひきこもり者に対する支援、DV対策、特殊詐欺などの犯罪対策、手話などのコミュニケーション手段の充実などの取り組みを進めます。

防災減災対策の強化

集中豪雨による水害、地震による家屋倒壊や火災などの事態に備え、治山治水事業や河川整備、住宅や橋梁の耐震化などに取り組みます。また、有事の際に迅速に対応できるよう、消防団をはじめとする関係機関との協力体制をさらに強化し、実効性のある危機管理体制をつくりあげます。総合的な防災減災対策を講ずることによって、すべての住民の皆様の生命と財産及び身体を守り抜きます。

4 与謝野力の向上を実現する

基 本 策

5 持続可能な環境を実現する

平成27年に策定した与謝野町教育大綱に掲げた理念に沿い、未来を担う子どもたちの学校教育の充実を図るとともに、住民一人ひとりが学び続けることのできる環境を構築します。また、先人たちから受け継いできた智慧と技術を継承し発展させることで私たちの町ならではの与謝野力の向上を実現します。

未来を見すえた教育の充実

国では、小中学校の学校方針の指針となる学習指導要領を改訂し、2020年度から新たな内容で授業を実施する方針を明確にしています。改訂のポイントは、従来の知識偏重型から脱却し、主体的で対話的で深い学びを重視することにあります。これまでの教育内容を基盤としながら、将来の転換期に向け創意工夫を行います。小中学校の施設整備や統廃合にも取り組みます。また、京都府教育委員会と連携し、府立加悦谷高校の魅力を高めます。

生涯教育の充実

昨年夏に開校した「よさのみらい大学」は、主体的に行動する人財の育成を目的としています。公民連携によって、魅力ある事業展開がなされていると考えており、来年度以降も生涯教育の柱にすえていきます。今後は、これらの学びから生まれる起業などに対する支援の仕組みづくりをめざします。

文化芸術振興の促進

文化庁の京都への全面移転が決定し、これからの日本の文化政策は京都から発信されることとなります。これを契機として、全国級の文化財である史跡やちりめん産業群を活用したまちづくりを推進します。また、古くから守り育まれてきた文化や産業に息づく創造性に基づいた文化芸術政策を講じます。

和文化の継承

私たちのまちには、着物、俳句・短歌、茶の湯、華道、和食、弓道、書道、能楽などの和の文化が息づいています。地域社会が育んできた伝統を学び継承していくための施策を講じます。



将来にわたって持続可能なまちであり続けるためには、現在を生きる私たちが未来を見すえて責任ある取り組みを進めていかなければなりません。

社会基盤整備の促進

住民の皆様が快適な生活を送るためには、地域の社会基盤を整えることが極めて重要です。自治区、近隣市町、京都府、国との連携を強化しながら、生活道路、サイクリングロード、主要地方道などの整備、京都縦貫自動車道の低料金化に取り組みます。また、ごみ処理施設整備や防災拠点整備なども積極的に進めます。

自然環境・景観の保全促進

大江山連峰、野田川、阿蘇海等の美しい自然環境と景観を保全することは、豊かな生活を支えると同時に産業の発展に大きく寄与します。ごみの減量化やリサイクル、森林保全活動や自然循環型農業、景観計画の策定などの施策を講じます。

再生可能エネルギーの創出

京都府や近隣市町との連携によって、水力発電などの再生可能エネルギーの創出に向けて取り組みを進めます。クリーンなエネルギーを作り出し、温室効果ガスの排出量の抑制計画を実効性あるものにします。

行財政改革の推進

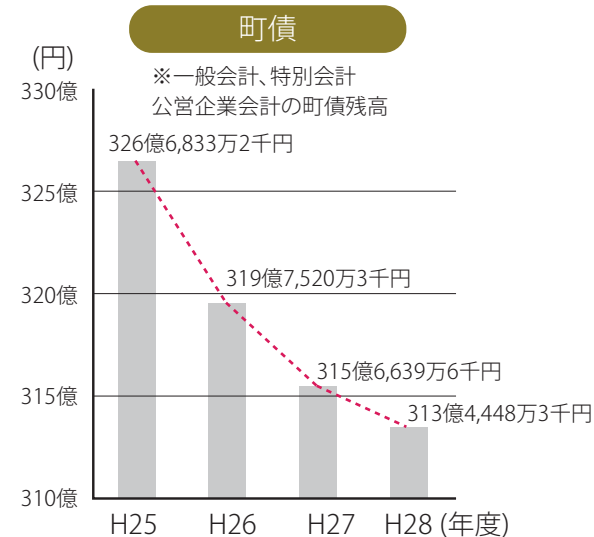
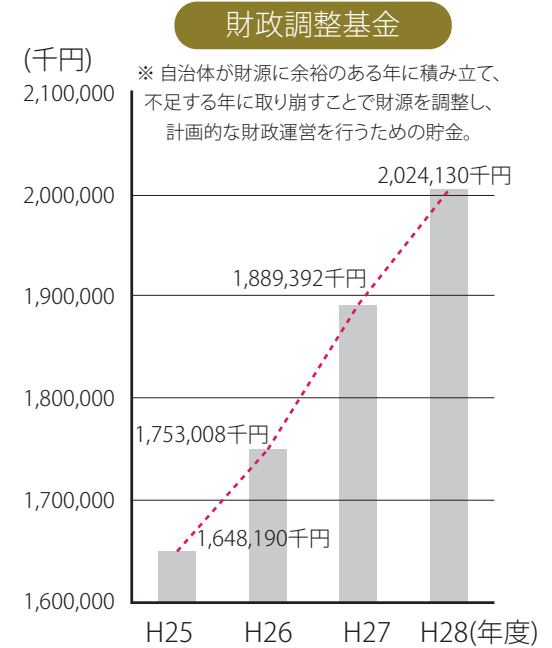
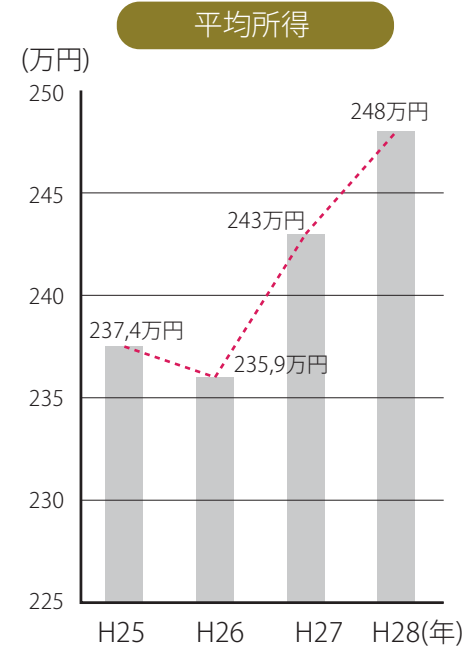
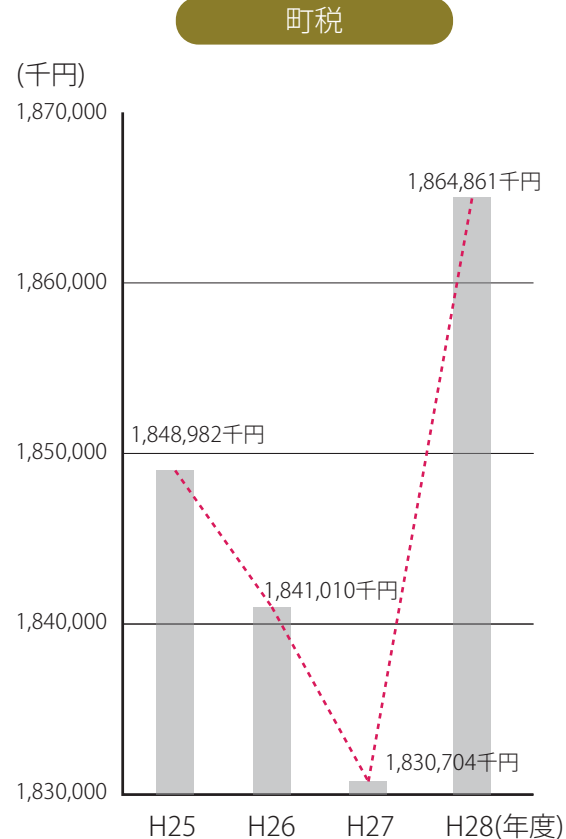
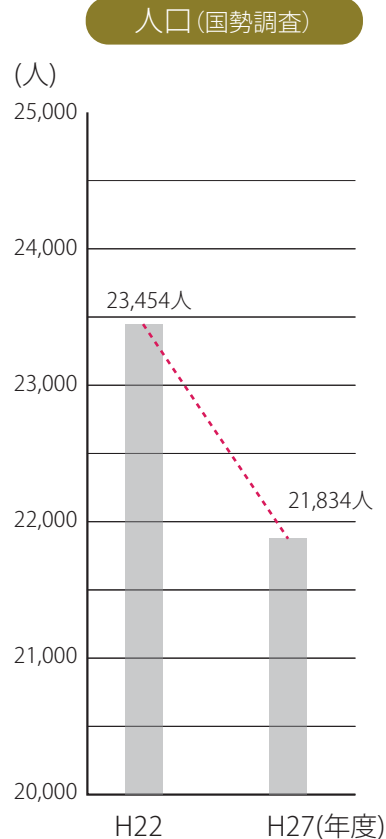
各種事業を実行していくためには、安定し規律ある行財政運営を行うことが求められます。最小の資源で最大の効果を生むことのできるよう、住民の皆様の声に耳を傾けながら、行政サービスの向上に努めます。財政運営においては、全事務事業の総点検や公共施設の統廃合及び複合化などの歳出抑制策を講じるとともに、公共料金の見直し、公共収納率の向上、ふるさと納税制度や国や府との十分な連携による効果的な歳入確保に努めていきます。これらの取り組みによって、将来にわたって責任ある財政運営を行うことができると見通しています。庁舎問題については、将来的に中心地に新庁舎を建設するために基金を積み立てるとともに、中期的なロードマップを描きます。



データでみる与謝野町

与謝野町の「みんなの知恵と技術で、
新たな価値を生み出すまちづくり」

各種統計や各年度決算から、与謝野町の変化を簡単に読み解きます。
各市町村の活力を図るバロメーターである人口と税収ですが、高校卒業を契機とする若年世代の人口流出が進んでいますが、法人税が増収傾向にあることや平均所得の向上が見受けられることから、緩やかな景気回復が進んでいると言えます。決算が確定している平成26年から28年までの3ヶ年は、すべての会計で黒字となりました。また、財政調整基金を積み増すことができたと同時に町債が減ったことから、安定した財政運営を行うことができました。



5つの統計や決算から過去数年間の変化を読み解きました。
この他にも、様々なデータが集計され公表されています。これらに真摯に向き合い、現状を正しく把握し、より良い政策を提案できるよう、精一杯努めます。